

黄蓮谷右俣

平成24年7月14～16日

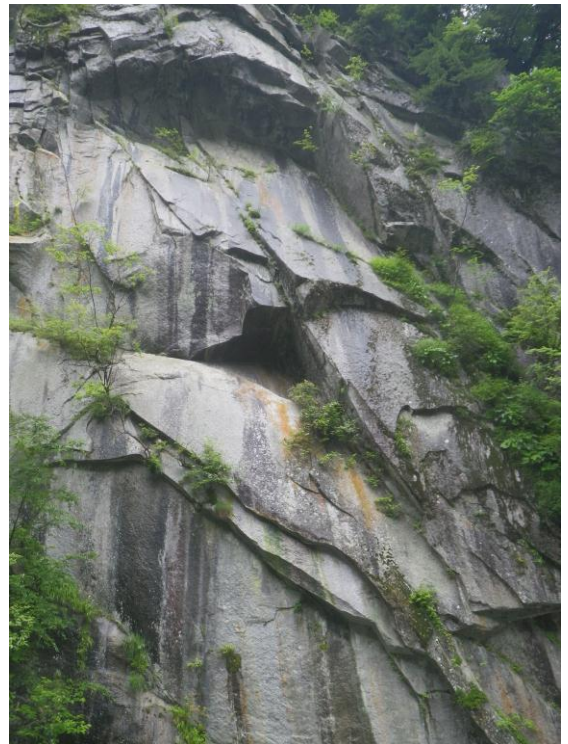
Ⓘ白土悟、斎藤広明、白土久美子（記録）

車2台で竹宇駒ヶ岳神社の駐車場へ行き、仮眠とする。私は全く気付かず熟睡していたけど、2人の話によると夜中結構な雨が降ったとのこと。下山後の車回収を考え、斎藤さんの車をデポし、白土車で日向山登山口まで移動する。急な林道を上がり、ひっそりとした駐車場からスタート。ところどころ崩落した林道を進み、錦滝を通過。この辺りはアイスのルートがいろいろあるようで、斎藤さんの解説を交えながらトンネル2つを過ぎると林道終点。ここで沢支度を整え、急斜面の踏み跡を残置ロープを頼りに降りると5分で尾白川の河原へ下りた。雨で増水している。岩を見ると平水時より15cmくらいは水位が上がっている。水は雨のせいなのか元々なのか、緑と黄土色を足して2で割ったような変わった色をしている。河原の中に時々釜をもつ3～5mクラスの滝が出てくる。滝はだいたいがつるんとしたスラブ滝で、釜は大きく、滑ったら嫌だなあと思わせるものばかり。曇天の下、寒いので釜にドボン避けたい。



入溪から少しで噴水滝か？と思わせる滝が

出てきた。地形図にある表記は間違っているらしいし、持参した遡行図はだいぶ簡素化して書かれていて、随分近いような気もするなあと思っていたら、しばらくして本物の噴水滝があった。釜の右側には見事な壁。岩壁に一部オレンジ色の部分があり、これが「花岩」らしい。



【花岩】

噴水滝は滑り台のようなスラブから水が流れ、釜へ落ちる直前でひょんぐりみみたいになっているのか、ほんとに噴水のように水が噴き出して見える。こんな滝初めて見た。噴水滝は左のスラブをぺたぺたと越える。下からの見た目より長く高く、だんだん“滑らないか”とドキドキしてくる。出てくる滝、どれもこんな滝ばかりで、大変だった。



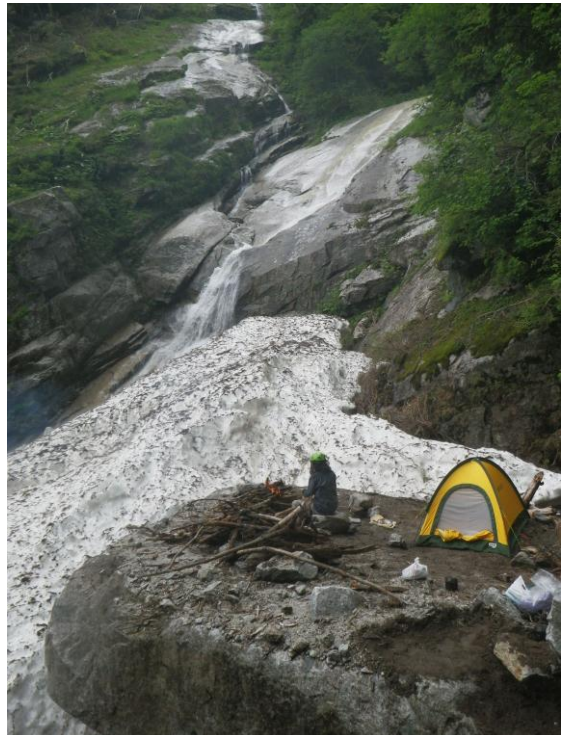
【噴水滝】

左から黒戸北沢が3：2で合流すると、右にしし岩を見て沢はゴー口となる。本流が右に曲がったところで左から黄蓮谷が入り、ここからいよいよ黄蓮谷へ。インゼルを過ぎると大きな千丈の滝が出てきた。このあたりから私が遅れだし、私が滝下に到着する頃には作戦会議が終了したようで、左に巻き道はあるが、「行けそうだ」ということで夫が取り付く。水流の左端をロープと補助ロープを延ばして登っていくが、逆層スラブのうえスタンスも水平ではないところをハーケンを何枚か打って左のブッシュまで抜けた。斎藤さんがセカンドであつという間に登り、私が引き上げでモタモタと登った。夫ながら、よくもこんなところをリード出来るなあ。



【千丈の滝をリードする夫】

その後滝を2つ巻くと、坊主滝。これまた見事なスラブですごい迫力。なんと、坊主滝の下は雪渓ですっかり埋まっていた。雪渓の上を通過し、左岸から坊主滝の巻き道を探す。右のガレルンゼには大岩があり、上は平らなテラスになっていた。今日は坊主滝の先の二俣まで行く予定だったが、意外にも快適なテン場の出現に、ここに泊まることにした。ルンゼから落ちてきた倒木が多数転がり、水も摂れる。谷に向かってせり出したテラスはタイタニック号の船首みたいで、目の前には雪渓と坊主滝という絶景が広がる。ここで焚火を楽しみながら快適な夜を過ごす。今までの山行の中で一番良いテン場だった。斎藤さんは二日分の酒を呑み干してご満悦の様子。



【絶景を前に焚き火を楽しむ】



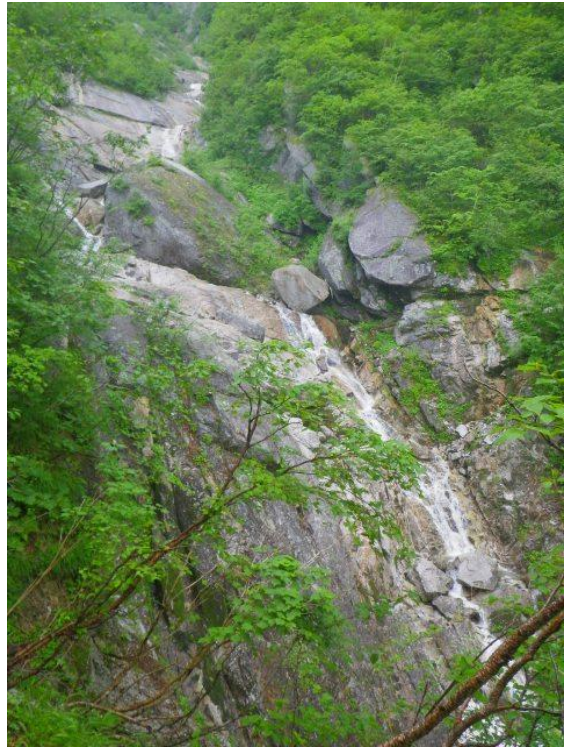
【下流側を望む 雪渓多い】

翌日は6時に出発。右のルンゼからブッシュへ続く踏み跡をたどって坊主滝を巻き、懸垂で沢に下りる。水流沿いには小滝があるが、体体温存のため左岸のブッシュ沿いに通過すると二俣となる。ここを右に入ると6m滝があり、夫と私は左から巻いたが、斎藤さんは難しそうな右壁に取付き、苦戦している模様。夫が上から見守る中、無事に越えたようだ。さすが斎藤さん☆

ここでまた雪渓のお出まし。結構長い。



奥千丈の滝も一部雪渓に埋まっているのかよくわからないが、傾斜が急になり、雪渓上のトイ状15m滝を右から巻き、左のブッシュへ逃げた。そのまま踏み跡を高巻く。



【高巻き中に見えた奥千丈の滝】

途中で滝の中ほどに飛び出し、そこから夫がリードでスラブを登り始めたが、数m登ったところで落ちて失敗。結局諦めて再び高巻きになった。ブッシュの中だけ急かつスタンスが微妙なのでロープを出した。ここから更にきつい(私だけ??)。だいぶ上がってから途中で烏帽子沢?に懸垂したが、烏帽子沢もまた急なツルツルのスラブで、そのまま補助ロープも交えて烏帽子沢を横切った。結構怖い。ひと息ついたところで斎藤さんと夫が私の荷物を持ってくれた。その後もブッシュの中を抜け、奥千丈の滝を越えたと思われるところで沢(急なので沢というより滝)におりた。沢は雪渓に埋まり、急な雪渓をキックステップで登る。滑ったらやばいので慎重に進み、岩が出ているところは岩の上を・・・いやこっちは滑るかもしれない、やっぱり雪渓か、とまた雪渓に戻ったりしながら高度を

上げていく。滑りそうなところでは補助ロープを出してもらった。雪渓を過ぎ、トイ状の滝を2つ巻き、もうこれで最後と思われるスラブ15m滝は右のブッシュから巻いた。踏み跡はあるものの、シャクナゲ・ハイマツに行く手を阻まれ、これまた苦しい。ちっとも進まない。



【最後のスラブ15m滝】

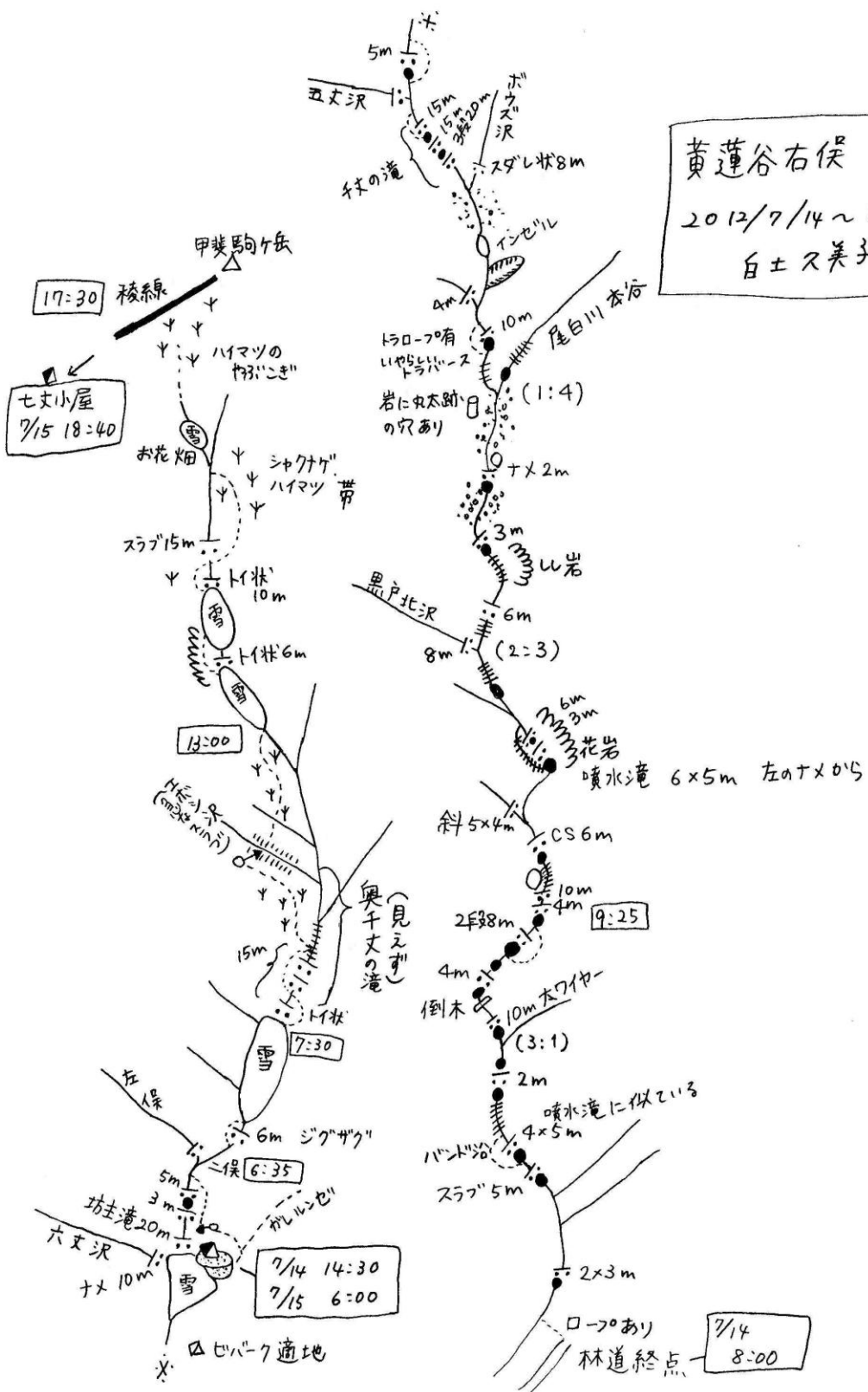
巻きおわると源頭の霏困気となり、コイワカガミが咲いていた。右岸に渡って沢筋を木につかまりながら登る。このあたりはお花畑ののんびりとした趣で、“あの沢の上にこんなきれいなところが”と思わせる。一匹ライチョウがいた。まだ冬毛が残っている。しばらく近くにいたようだったけど、足の遅れた私が到着するとすぐに逃げていった。最後はハイマツの藪漕ぎとなり、疲れはMAX、いっこうに進まない。2人をずいぶん待たせ、転がるようにして山頂と9合目の間の登山道に飛び出した。できれば山頂を踏みたかったけど、そんな余裕などあるわけもなく、夕暮れの登山道を下り、ヘッデンぎりぎり七丈小屋のテン場に到着。テン場はもういっぱい。どうにか隅っこの斜めっているところにテントを張り、周囲が寝静まる頃、斎藤さんがシチューを用意してくれた。夜中雨が降ってきたが、ぐっすり眠る。

最終日は朝6時半に下山を開始。標高が下がるにつれて気温も上昇してくるのがわかる。梅雨明けの青空が広がり、こういう日に泳ぎの沢に行ければいいのだけど、最近はずっと猛暑の割に土日だけ天気が良くない。連休最終日の今日は晴れたけど、私たちは水に触れることもなくひたすら歩き、汗だくで真夏の竹宇神社に着いた。尾白川の河原には水遊びに興じる家族連れがたくさん、駐車場で警備員が交通整理をするほど賑わっていた。

実は今シーズンの目標は密かに「脱初心者」。今回はいつも増して苦戦してしまい、2人にはかなりお世話になった。奥千丈の滝をほとんど巻いてしまったのは残念だったし申し訳なかったけど、スケールの大きな沢に連れて行ってもらえてとてもよい経験ができた。いつになったら「初心者」を卒業できることやら・・・

7/14	6:00	駐車場
	8:05	入渓
	10:00	噴水滝
	12:00	千丈の滝
	14:30	坊主滝下 (ビバーク)
7/15	6:00	ビバーク地
	7:30	奥千丈の滝
	17:30	稜線
	18:40	七丈小屋
7/16	6:30	七丈小屋
	10:40	竹宇駒ヶ岳神社駐車場

黄蓮谷右俣
 2012/7/14~16
 白土久美子



17:30 稜線
 七丈小屋
 7/15 18:40

12:00

7:30

7/14 14:30
 7/15 6:00

9:25

7/14
 8:00

噴水滝 6x5m 左のト×カス

噴水滝に掛っている

林道終点